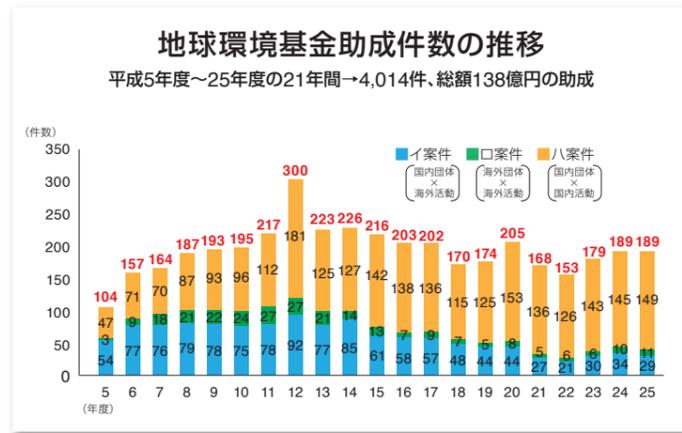


持続可能な社会の実現のために

環境NGO・NPOと地球環境基金の未来

2013年に20周年を迎えた地球環境基金。私たちは、これまで国内外の環境NGO・NPOが行うさまざまな環境保全活動の支援を行ってきました。その過程では、常に、今どのような支援が環境NGO・NPOに必要なのかを考え、事業に反映させてきました。「持続可能な社会の実現」を目指したこれまでの事業の成果を振り返り、これから目指すべき姿—未来—を考えます。



地球環境基金の創設から20年

国内ではNGO・NPOという言葉がまだ珍しかった1992年、「環境と開発に関する国連会議（地球サミット）」がブラジルのリオデジャネイロで開催され、日本を含む多くの国の政府代表、国際機関、NGOがこの会議に参加しました。これを受け、国内でも環境NGO・NPOのサポートに向けた具体的な動きがスタートし、「国と民間の双方が資金拠出を行い、内外の民間団体による地球環境保全活動に対する助成・情報提供・研修等の事業を実施すること」を目的に、会議の翌年である1993年、地球環境基金が創設されました。

地球環境基金は、これまで環境保全活動を幅広く総合的に支援し、国内外の環境NGO・NPOに対し総額約138億円、4,014件ののぼるプロジェクトへの助成を行ってきました。そして今では、環境保全活動において環境NGO・NPOの存在は欠かせないものとな



A. (特非) スペースふう B. (一社) 葛西臨海・環境教育フォーラム C. 地球環境基金海外派遣研修 D. (公社) 生態系トラスト協会 E. (一社) 葛西臨海・環境教育フォーラム F. 地球環境基金20周年記念講演会・シンポジウム G. (特非) あきた菜の花ネットワーク H. 地球環境基金若手プロジェクトリーダー研修 I. 香港観鳥会 J. うちエコごはん

Vision -ビジョン-

これからの社会は、市民一人ひとりの思いや志を、行動に変え、様々な環境諸課題を解決することが大切。環境NGO・NPOは、現場での活動を通じて、こうした一人ひとりの取り組みや声、行動を結びつけ、社会の共感を得ながらその取り組みの輪を広げ、良好な環境の創出につなげるという、大きな役割が期待されている。活動の輪の広がり、それぞれ特有の生活、文化、経済を背景とした地域でのものから、多様な考え方や生活文化を持つ人々に関わる国際的、地球的規模のものまで、様々なレベルで必要となっている。その核となるべき環境NGO・NPOの活動もまた、多様なものになることが期待されている。地球環境基金は、環境NGO・NPOの自主性、自立性、多様性を尊重しつつ、他の支援組織や事業者、行政と協力し、その活動を支援することを通じて、私たちの将来の世代に、豊かに生きる基盤である地球を引き継ぐことができる、持続可能な社会の実現に貢献する。

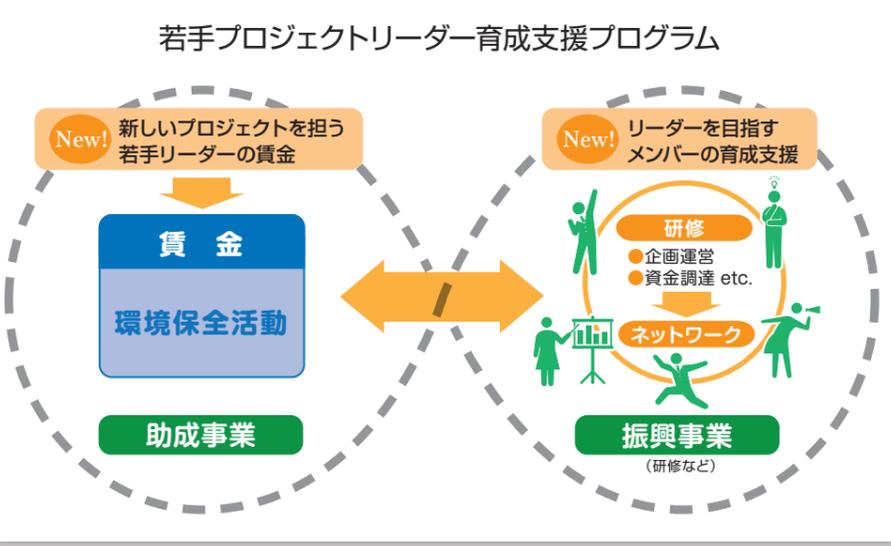
Mission -ミッション-

- 1 環境NGO・NPOは、持続可能な社会づくり、環境保全に欠かせない存在となり、今後、さらに資金力の強化及び、専門力、提案力、動員力、発信力など、活動を支える力を強化すること、また、各々が自主性、自立性、多様性を尊重しつつ、他の主体との連携・協働を強化することなど、その機能を高めていくことが重要。その活動が充実するにつれて、市民から共感・信頼を得、活動がより大きくなり、経済や社会を変え、よりよい環境を作り出していくことが期待される。そうした期待に応え、共感・信頼される環境NGO・NPOが質的にも量的にも充実するよう、また、機能強化につながるよう地球環境基金は支援の拡充を目指す。
- 2 持続可能な社会には地域での取り組みが欠かせない。地域作りを担い、地域に貢献できる活動を大切にするとともに、その地域活動が各主体との連携・協働などにより「孤」から「環」に広がるよう地球環境基金は、環境NGO・NPOを支援していく。また、環境問題は国境を越え、地球大につながっている。取り組みの環が世界へとつながり、広がっていくよう、地球環境基金は、国際的視野をもって、環境NGO・NPOを支援していく。

地球環境基金の未来

2014年、今後の事業のあり方を検討した結果を踏まえ、更なる環境NGO・NPOの強化に向けた支援の拡充、環境保全活動を行う次世代の人材育成、持続可能な社会の実現に貢献することを掲げて、事業メニューの見直しを行いました。

その主なメニューは、①助成事業の目的の明確化、多様化 ②環境NGO・NPOの人材育成 ③助成事業・振興事業（環境保全活動を担う人材を育てる活動の評価システム見直し）④各主体（民間団体・企業・行政）との連携促進の4つです。特に、②で挙げた人材育成においては、今まで別枠で進めていた助成事業と振興事業をパッケージとした「若手プロジェクトリーダーの育成支援プログラム」をスタートさせました。助成事業としてプロジェクトの根幹を担う若手担当者の活動推進費（賃金）を複数年にわたり支援することで、集中して環境保全活動に取り組んでいただく一方、振興事業の一つである研修事業に並行して参加してもらい、企画運営や資金調達等のノウハウを学んでいただけるものです。このプログラムに参加した若手担当者同士で意見交換や実習を重ねること、他団体とのネット



ワークを構築できるといったメリットもあり、様々な角度から環境NGO・NPOの次世代を担うリーダー育成を目指します。市民から共感・信頼される環境NGO・NPOが質的にも量的にも充実し、また、機能強化につながるよう地球環境基金は支援の拡充を目指します。環境問題は国境を越え、地球大につながっています。地球環境基金は、これからも環境NGO・NPOへの支援を通じ、「持続可能な社会の実現」を目指してまいります。

地球環境を守る活動

を応援しています。

「環境再生保全機構10周年誌」 発刊に寄せて

株式会社 トーカイ
代表取締役社長 **小野木 孝二**



この度は設立10周年という記念すべき節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。
 弊社は1955年の創業以来、限りある資源のリユースとリサイクルを事業活動の根幹におき、医療機関・介護福祉施設等へのリネンサプライや介護用品のレンタルなど、人々の「清潔と健康」を目指し、資源の有効活用と環境保全に一企業として取り組んでおります。
 事業活動と共に、環境保護活動支援に企業として取り組みたいと考えている中、循環型社会形成や民間団体による環境保護活動支援という基金の趣旨に賛同し、2009年より水の宅配事業である「アクアラ」事業において、お客様にご購入を頂いたボトル代金の一部を地球環境基金に寄付する取り組みを開始いたしました。
 今後も地球環境の保全に資する企業活動を行っていくと同時に、この基金を通じて、環境保全に関わる多くの方々の歩みを支える活動にも引き続き積極的に取り組んでまいります。

応援
メッセージ

私たち地球環境基金は、環境NGO・NPOなど
環境保全活動を担う人材の育成や



多様な寄付方法

10周年誌 発行にあたりまして

ブックオフコーポレーション 株式会社
総務部チーフマネージャー **堀内 美堅**



設立10周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。
 弊社と地球環境基金部との間では、弊社のボランティア宅本便という寄付プログラムで平成24年6月から提携させていただいております。同プログラムは、寄付を希望される方が、金銭ではなく不要となった書籍等を弊社へ売却し、その売却代金を地球環境基金へ寄付されるというものです。またこれと併せて、寄付金額の10%相当額を弊社からも寄付させていただいております。
 今後もささやかではあります様々な環境活動の一助になれば幸いです。またひいては同活動が将来に亘っての子供たちの明るい未来に寄与されていくことを祈念しております。

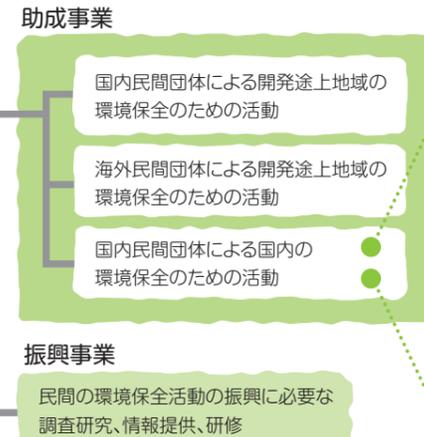
応援
メッセージ

本 de 寄付 (ご不要になった本やCDで寄付)
 ブックオフコーポレーション株式会社のご協力により、寄贈されたご家庭や職場等でご不要になった本やCD・DVD・ゲームソフトをブックオフに買い取っていただき、その買取金額が地球環境基金に寄付される取り組みです。

スマイル・エコ・プログラム (リサイクルを通じて寄付)
 送料無しの宅配買取にエコ基金を組み合わせるのが「スマイル・エコ・プログラム」です。買取1件につき、リネットジャパングループ株式会社のご負担により一定の金額が地球環境基金に寄付されるプログラムです。また、買取代金から任意の金額を地球環境基金に寄付いただけます。

●寄付の方法や詳しい内容は
地球環境基金部 基金管理課

民間団体の活動を資金面でサポートするとともに、
団体の組織強化を図る活動を行っています。



Thanks
メッセージ

ちば里山カレッジの開催 ～里山活動の更なる継続・発展を目指して～

特定非営利活動法人 ちば里山センター
里山カレッジ担当理事 **小西 博典**



平成15年、他県に先駆けて制定された「千葉県里山条例」を契機に、荒れた里山を市民の手で再生する里山活動が活発に展開されてきましたが、10年を経て、今後里山活動を継続・発展させるための課題として、第一世代の高齢化と後継者不足が活動団体へのアンケート結果でも明らかになりました。
 これら課題への対応として、地球環境基金の助成を受け、里山活動に必要な知識と技能を習得する「ボランティア養成コース」と総合的視点で活動できる人材を育成する「次世代リーダー養成コース」を3ヶ年で県全域を対象に企画し、2年目の現在まで70名の卒業生が地元で里山活動を展開しています。
 一方、この活動を3ヶ年で終わらせることなく、助成終了後も継続したいとの意見が、行政及び関連機関、活動団体等から寄せられており、地球環境基金からの助成を機に始まった活動の輪が更に広がるよう関係者一同努めていきたいと思っております。

Thanks
メッセージ

1種類のチョウを絶滅から 救うことができました

特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会
事務局長 **中村 康弘**

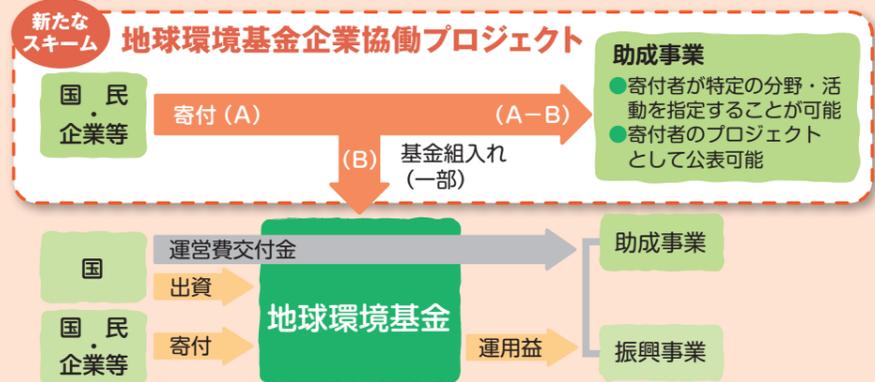


当協会では、絶滅寸前のチョウを守る活動に、助成をいただきました。北海道～九州までの全国9カ所で、絶滅の危機にあるチョウを調査し、地域の方々と協働しながら保全活動を行うことで、多くのチョウ類の生息状況を改善することができました。なかでも、すでに絶滅した可能性が高いといわれていたツシマウラボシシジミを、助成による徹底した調査で見つけ、同時に速やかな対策をとることで、絶滅寸前だった1種を救うことができました。このチョウを絶滅から救えたことで、国レベルの生物多様性保全に大きく貢献できたと考えています。

野生生物であるチョウを守るには、年度途中で緊急に対策が必要な場面も少なくありませんが、そうした場面でも本当に必要な対策に絞って、効率よく助成金を利用しています。地球環境基金にご寄付をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、現場で鋭意取り組んでおりますので、引き続きのご協力・ご支援へのお願いを申し添える次第です。

特定の分野や活動を支援する新しい枠組みをスタート

寄付の新しい受入方法として、「地球環境基金企業協働プロジェクト」という助成スキームを、平成26年度に立ち上げました。
 従来の寄付の場合、寄付をすべて基金に組み入れた上で、その運用益が助成等に回るため、対象を限定せず幅広く活動に充てられるのに対し、新しいスキームでは、寄付が直接助成に充てられるため、寄付者は特定の分野・活動を指定することが出来ます。さらに、採択した活動については、自社のプロジェクトとしてPRすることが可能です。



地球環境基金のシンボルマーク 「基金ちゃん」の紹介

地球環境基金を
よろしきゅ
お願いします!



「基金ちゃん」は、NGO・NPOの環境保全活動への支援を目的とした地球環境基金の事業を、より身近なものとして、広く皆さまに知っていただくために誕生しました。

一人ひとりの思い(ハート)を集めた大きな力が私たちの将来の世代が豊かに生きていける地球環境を支えています。

いろんなところで「地球環境基金」を紹介していきます。私を見つけたときは、どうぞよろしきゅお願いします!

プロフィール

- 名まえ ● 基金ちゃん
- 年い ● ？
- 住まい ● 神奈川県川崎市
- 身長・体重 ● 50cm・kg
- 好きなこと ● 地球のためにできること!
- チャームポイント ● つぶらなひとみ
- 趣味 ● 募金活動
- よく行くところ ● 環境イベント会場
- 特技 ● 語学